

授業科目 地球環境論

【担当教員名】 澤口 晋一	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・義肢・健栄・スポ・社会・看護・情報
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【概要・一般目標：GI0】
地球環境問題の中から地球温暖化問題に特化して概説する。地球温暖化は将来の世界に大きな影響を与えることが懸念されている。しかし、影響の大きさが喧伝される割には、温暖化によってこれまでどこで何が起きて、これからどこで何が起きると予想されているのか、さらにこの問題に関して国際社会は何をやってきて、これから何をしようとしているのか、といったことに関しては、一般には必ずしもよく理解されていない面がある。このような点を踏まえて、本講義では、地球温暖化が原因と考えられる諸現象について、できるだけ多くの事例を用いて説明する。ついで、この問題に対する国際社会の取り組みについて説明し、地球温暖化とその問題の全体像を把握する。

【学習目標】
地球温暖化問題とは何かを多角的に認識するとともに、この問題に対して、自己の位置づけを市民としての立場から明確化すること。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題備考・担当教員
1	「地球環境」と「地球環境問題」		講義
2	地球環境問題の原因と構造。地球環境問題への国際社会の取り組みとその歴史		講義
3	地球温暖化の検証1（温室効果ガスの大気中濃度、気温の推移）		講義
4	地球温暖化の検証2（海面上昇、山岳氷河、両極域の海水面積、永久凍土）		講義
5	温室効果のメカニズム（温室効果を正しく認識する）		講義
6	地球温暖化が人為とされる根拠（気候モデルとコンピュータシミュレーション）		講義
7	ビデオ視聴（NHKスペシャル 気候大異変1,2）2006年放送		講義
8	IPCCによる将来予測（気候変動：第四次評価報告書 第1部会報告書に基づいて）		講義
9	IPCCによる影響予測（人間社会への影響：第四次評価報告書 第2部会報告書に基づいて）		講義
10	地球温暖化に対する国際社会の取り組み（気候変動枠組み条約、京都議定書、締約国会議）		講義
11	ビデオ視聴（NHKスペシャル 大気をめぐる攻防）2003年放送		講義
12	地球温暖化に対する日本の取り組み（-6%は可能か）		講義
13	反地球温暖化説（地球温暖化反人為説）について		講義
14	氷床コアから明らかとなってきた第四紀の気候変動とその結果からみた現在の地球温暖化の位置づけ		講義
15	まとめ（エネルギー問題と地球温暖化）		講義

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)				
参考書				
その他の資料	気候変動2007：統合報告書 政策決定者向け要約	IPCC（L. Bernstein ほか）、文科省・気象庁・環境省・経産省	文科省・気象庁・環境省・経産省	2009・ http://www.env.go.jp/earth/ipcc/4th/syr_spm.pdf
	温暖化の観測・予測及び影響評価統合レポート「日本の気候変動とその影響」	西岡秀三ほか	文部科学省 気象庁 環境省	2009・ http://www.env.go.jp/earth/ondanka/rep091009/full.pdf

【評価方法】 試験	【履修上の留意点】 上記2点の資料をあらかじめ明記したアドレスからダウンロードしカラーで印刷しておくこと。
--------------	--